

株式会社 松井ニット技研

認定テーマ名：アート性と機能性を両立した「マルチカラーストライプ衣料」の製造・販売

1. 認定を目指した経緯

株式会社松井ニット技研は、群馬県桐生市で107年続く、タテ編ニット生地製造業者である（創業明治40年）。桐生市は、古くから織物の産地として発展を遂げた日本有数の繊維産地であるが、製造を海外へ移行する動きが強まり、その影響を大きく受けている地域でもある。

認定を目指した経緯として、桐生市内からも多くの企業が認定を受けて地域の活力向上のために頑張っていたため、同社も地域に貢献したいという思いがあった。また、タテ編みニットの技術や機能性を駆使したアート性の高いマルチカラーストライプのマフラーなど雑貨を製造し、国内のセレクトショップやニューヨーク近代美術館（MoMA）などで順調に販売していたが、雑貨だけでは販路が限られてしまう課題を抱えていた。そんな折、取引先などから衣料分野への進出を勧められ、雑貨と全く異なる衣料分野への進出には経営的な体力を要するなど容易ではないため、国の認定を取って進めるのが良いと周囲に勧められた。その後、事業計画のブラッシュアップを進め、平成21年3月に地域産業資源活用事業計画の認定を受けた。

2. 認定事業の現況

衣料分野の中でもゴルフウェアに焦点を絞り、ゴルフというスポーツならではの特徴を捉えて試作を繰り返し、開発や販路開拓に非常に時間をかけた。認定から3年半後の平成24年秋に伊勢丹新宿店にて取扱いが開始し、その他ゴルフウェアのセレクトショップなどでの採用も決まり、ようやく本格的な販売が開始したところである。



写真1. 女性用リブ編みゴルフウェア



写真2. 男性用リブ編みカーディガン

3. 今後の展望（見通し）

事業活動を通じて感じたことは、ブランド力の低さである。もともと、美術館やセレクトショップでは高い評価を得ていた雑貨だが、業界の異なるゴルフ界では新米である。今後も引き続き、知名度向上を図り、ブランドの確立に取り組む必要がある。同時に、季節ごとに展開する新商品開発の強化に取組み、ゴルフ関連の展示会に出展しながら販路開拓を進める。

4. 利用した中小機構の支援策

①展示会出展

「JFW-IFF×NIPPON MONO ICHI」や「Rin crossing」など、中小機構が支援する数多くの展示会に出展したことが、商品のPR、認知度向上につながった。



写真3. 全国から厳選された商品を陳列した「Rin Crossing」企画の展示会

②専門家派遣

初めてゴルフ業界の展示会に出展する際、中小機構の専門家派遣を活用した。専門家によるアドバイスは、ブースコンセプトの作り方に始まり、展示するパネルや小物のアドバイス、さらに当日の商品の陳列方法に至るまで幅広く行われ、同社のその後の展示会出展の際にも役立った。

③ネットワークの構築

桐生市内の他の認定企業とは、認定前からつきあいがあったが、認定後、様々な展示会や交流会に参加して情報や時間を共有するにつれ、より強固な関係が構築され、地域の頑張る企業が手を組める環境が出来上がった。具体例として、合同で大きな展示会に出展するなど協力し合って活動している。

5. 企業概要

事業者名	株式会社 松井ニット技研		
本社所在地	群馬県桐生市本町4丁目甲85		
ホームページアドレス	http://www.matsui-knit.co.jp/		
設立年月	昭和50年6月（創業 明治40年）		
資本金	13,000千円	従業員数	8名

6. 認定事業の概要

テーマ名	アート性と機能性を両立した「マルチカラーストライプ衣料」の製造・販売
テーマの概要	明治時代から伝わる特殊なリブ編み技術を活用した、アート性と機能性を両立したストライプ柄衣料の製造と販売
認定期間	平成21年3月19日～平成26年2月28日